

泌尿器科診療ガイド

勝岡洋治 編

＜書評者＞ 力石辰也（聖マリアンナ医科大学・腎泌尿器外科）

臨床医であれば誰しも、診療の途中やカンファレンスの時に、最新の情報を調べたり確認したりしたいと思ったことがあるはずである。そのようなときに皆さんはどうしておられるだろうか？ 一般には教科書やガイドライン集を外来やカンファレンスルームに常備しておいたり、インターネットへのアクセスが可能なコンピューターを設置したりして対応しているものと思われるが、欲しい情報がすぐに手に入るとは限らないため、イライラした経験をお持ちの方も多いと思う。

このたび刊行された、勝岡洋治先生編集の『泌尿器科診療ガイド』は、このようなイライラを解消してくれる、重宝な1冊である。その特徴は、図表やアルゴリズムが多用されて分かりやすいこと、疾

患の概念は簡潔な記述にとどめ、各種ガイドラインに準拠した治療法の説明に重点が置かれていること、そして何よりも最新の情報が収載されていることである。執筆者は第一線で活躍する若手の有力者が多い。例えば腎癌の分子標的治療薬の項目では、現在日本で入手できるスニチニブ・ソラフェニブ・エベロリムス・テムシロリムスの4剤について、どの薬剤を選択するかを目安の図が示されているとともに、主な標的分子・剤形・含有量・用法・用量・減量の方法・副作用が一覧表になっており、大変実践的である。Side memoとして提供されている副作用対策も臨床ですぐに役立つ情報である。

本書を常に持ち歩き、常に参照することは、研修医はもちろん、

中堅の医師や指導医にも有用と考えられるが、残念ながら常時携帯にはやや重いのが唯一の難点である。本書のような書物こそが、電子出版によって持ち運びが便利になり、かつ最新のデータをアップデート可能にすることによって、その利点を最大限に生かせる書物だと思う。

私は、今年から外科系の研修を当科でおこなう初期臨床研修医に1冊ずつ本書を贈呈することにした。研修医には大変喜ばれているが、この本によって彼らのうち誰か1人でも泌尿器科学により深い興味を持ち、後期研修を行う決心をしてくれるのではないかと密かに思っている。もし本当にそうなったときには直ちに編者の勝岡先生にご報告申し上げるつもりである。

●A5 頁471 2011年

定価 6,090 円

(本体 5,800 円＋税)

[ISBN978-4-7653-1473-2]

金芳堂 刊